



「今こそ STOP！代理出産」始動 プレス・リリース

2015年5月11日「今こそ STOP！代理出産」キャンペーン始動
代理出産の実施と女性・子供の収奪を廃止するための世界連合

サンフランシスコ、カリフォルニア州／2015年5月11日——本日から「今こそ STOP！代理出産」(Stop Surrogacy Now) キャンペーンが始動します。この活動は、世界中の多種多様な民族、宗教、文化を背景にもち、女性の搾取や収奪と、代理出産を通じた子どもの人身取引に反対する団体を結びつけています。

世界18カ国、100名以上の人々と16団体が支援する「今こそ STOP！代理出産」キャンペーンは、代理出産が、子どもを産む対価として金銭を支払われる女性たち——多くの場合、彼女たちは貧しく、社会から疎外されています——を搾取、収奪していることが認知されるよう取り組んでいます。代理出産を引き受ける女性たちは、しばしば強制下で、拘束的あるいは水準以下の生活状態で、粗末なヘルスケアを受けています。加えて、代理出産そのものが多くの深刻な短期的、長期的な健康被害リスクをもたらします。多くの代理母は、その子宮内にある「資産」を24時間管理する年季奉公者として扱われています。

「今こそ STOP！代理出産」は、代理出産で宿される子どもたちが、男女産み分け、または子どもの障害や単純な心変わりによる子の遺棄（引き取り拒否）の対象として捉えられ、「品質管理」されている事実を、社会が認識するよう訴えかけています。代理出産で「生産」される子どもは、不公正な取引構造と、野放図な市場の結果であるのに加え、子ども自身が契約の対象とされています。ほとんどの場合、こうして商業的に作られた子どもたちは、母子の自然な結びつきを突然に、そして完全に断ち切られます。意図的に、産みの親との触れ合いや、親に関する情報を奪われるのです。これは国連の「児童の権利に関する宣言」への明らかな違反です。

本キャンペーンの加盟者たちは、代理出産という行為の完全な廃止を求めています。世界中の女性と子どもを守るため、子どもの商取引をあたりまえと位置づけ、合法化しようとする動きには終止符を打つ必要があります。

「女性は産む機械ではない」。国際イスラム女性組合・パキスタン支部の代表である Shagufta Omar 氏は、そう言って次のように続けます。「母と子をお互いから切り離すことは、それぞれに対する人権侵害です」。

「そこには子どもの人権などありません。富める人々が、生きた孵卵器として女性を利用し、子どもを連れ去り、自身の所有物として見せつけることはやめるべきです。私たちはいまこそ、この生殖奴隷制度を阻止しなければなりません」。女性の健康問題について発言し続け、FINRRAGE（オーストラリア）コーディネーターでもあるレナーテ・クライン博士は、そう言います。

「今こそ STOP！代理出産」キャンペーンに参加している 16 団体の一つ「CoRP」はフランスの NGO です。人権向上の啓発活動を行い、代理出産は、欧州評議会「人権と生物医学条約」（いわゆるオビエド条約）第 21 条「人体と人体組織を、金銭上の利益をもたらすものとして扱ってはならない」に違反する国際慣習であるとして、その廃絶を求めています。

スウェーデンの Mia Fahlen 博士はこう言います。「私は、世界中で起きている代理出産という女性の搾取や収奪と闘うために、このキャンペーンに加わっています。この方法が引き起こす倫理的、そして医学的・心理的な問題は、これまで考えられていたよりはるかに大きいのです」

私たちは全ての人々の参加を受け付けています。「今こそ STOP！代理出産」キャンペーンを支持するためのご署名をお願い致します。

署名ページはここから。<http://www.stopsurrogacynow.com/#sign>（署名欄に書かれた文章は声明文と同じ内容です）。

メディア問い合わせ先(英語のみ)

media@stopsurrogacynow.com

日本語訳：代理出産を問い直す会

原文 <http://www.stopsurrogacynow.com/press/#sthash.FXDG0a8D.dpbs>